

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 令和6年3月31日

事業所名:ガリレオジュニア

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		十分なスペースを確保しております。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		児童指導員、保育士、機能訓練職員(理学療法士)等、多職種を常勤で配置しております。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		活動スペースはバリアフリー化しており、段差はありません。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		温度管理を行うとともに、換気や消毒等も徹底して行っております。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		PDCAサイクルを利用し、支援内容の設定や見直しを職員一同で随時行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		保護者からの事業所評価をもとに、不十分な内容を職員一同周知し、目標を検討し実施できるよう計画を立案しています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○		今後、発達支援事業に関する情報をホームページなどを用いて保護者に広く情報公開します。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第三者による外部評価を取り入れることを検討しています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		児童発達に関する様々な研修に全職員が積極的に参加している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		○		遠城寺式発達検査を使用し定期的に実施し、子どもたちの発達状況を把握し、支援計画の作成を行っていきます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		子どもたちの特性を確認しながら、運動機能・社会性・コミュニケーション能力・巧緻動作等の項目について評価し、情報を共有していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか		○		ガイドラインに沿って支援内容を設定し、実践していきます。運動機能訓練は、整形外科医師、理学療法士と密に連携をとり、意見を出し合いながら支援内容を設定していきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか		○		今後、全ての職員が子どもたちの特性を理解し、それを基に計画された支援を行っていきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○		整形外科の特性を生かし、理学療法士も参加し、運動機能の評価と活動プログラムをチームで作成していきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		運動療育に水泳プログラムを導入するなど、多彩な活動内容を行う予定です。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか		○		年齢や発達状態の違いを考慮し、個別で対応するか、集団活動の中で支援するか、検討し実践していきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		支援開始前に参加する子どもたちの支援内容を確認し、職員の役割を決定し支援に入るよう準備をしていきます
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		活動終了後、その日の支援内容や子供たちの反応、達成点や反省点を話し合い、記録を残し、次の支援目標を掲げていきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		支援中の問題点や気づいたことを必ず記録に残し、全職員が確認できるようにしていきます。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか		○		子どもたちの状況を定期的にモニタリングし、目標達成状況を検証し、不十分な結果について見直しを検討していきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		○		児童発達支援管理責任者が必ず参加します。医療的な支援や管理が必要な子供に関しては事前に医師から情報を得て、会議に情報提供を行います。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		○		最近開設された療育支援センターのスタッフと鹿児島県の現状について詳しく会議を行うなど、密に連携し支援に役立っています。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○		重度心疾患や遺伝子欠損症、てんかんなど、様々な疾患を有する子どもたちを受け入れ、主治医や保健・福祉関係者と密に連携を取り、医師の監視のもと支援を行っています。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○		併設クリニック医師の協力のもと、かかりつけ医や関係医療機関と情報を共有し連携を整えていきます。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○		積極的に情報の共有を図っていきます。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○		就学前相談に積極的に参加し、小学校との情報共有を行っています。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		他の事業所職員や相談員との連携を密に行い、複数の事業所に通所している子どもたちの情報を共有し、支援計画に反映させていきます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		様々な感染症が蔓延している状況下のため控えている。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		○		様々な感染症が蔓延している状況下のため控えている。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		○		連絡帳やSNS、電話などを用いて活動内容を共有していきます。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		ペアレントトレーニングを行うための専門的技術が不十分なため、今後の活動課題として検討しています。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○		利用開始時や契約時に説明を行います。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか		○		保護者に計画内容を説明し確認をいただき、署名にて同意を得ます。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○		活動状況を報告した際に相談を受ける場面が想定されます。可能な範囲で助言や支援を行っています。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		様々な感染症が蔓延している状況下のため控えている。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○		児童発達支援管理責任者が窓口となって随時対応している。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		SNSを用いて活動内容を情報発信していきます。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		職員間で十分に配慮し、取り扱いについて保護者の同意を得ている	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		○		それぞれの子どもの障害特性に応じた情報伝達方法を常に模索し支援に取り入れています。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		様々な感染症が蔓延している状況下のため控えている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○		マニュアルを整備し、災害時訓練を行っています。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○	併設クリニックと同様の対応を行っている。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか		○		保護者の同意を得て、主治医から情報を提供してもらい、疾患特性や服薬内容、急変時の対応などを確認していきます。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	アセスメント時に確認し、対応します。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		ヒヤリハットの記録を徹底し、その検証を常に行い、職員間で対処方法について検討し周知していきます。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		マニュアルを整備し、定期的に研修を受けています。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○		マニュアルを整備し、全職員が身体拘束について理解している。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)